

介護職に関する男性の意識
石川周子（お茶の水女子大）

＜目的＞本研究では、現状として女性が多い介護職に、あえて関わろうとする男性について、介護を職業として選択する過程にどのような要因が影響を与えているかを検討し、さらにそれらに性役割意識がどのように関わっているのかを探ることを目的とする。

＜方法＞都内に所在する介護福祉士養成専門学校生男女を対象として、1996年7月に質問紙調査を行った。調査内容は、職業選択の際に重視すること、介護行為の自己能力評価、性役割意識の尺度として、個人的属性質問紙を用い、これらの項目と介護職に対する評価、介護職への就労意志との因果関係を調べ、男女の比較を行った上で男性の特徴を明らかにする。

＜結果＞（1）介護職への就労意志の形成に、介護職に社会的意義を見出す価値観と、介護職を自分の志向に合致したものと捉える価値観の2つが影響しており、男性において、介護職への評価の高さと多様性が認められた。（2）介護職が自己の志向に合致したものと捉える要因として、男性において介護行為に対する自己能力評価の高さが影響していた。（3）男性における自己の男性性の認識の高さは、職業において社会的意義を重視する価値観と介護行為の自己能力評価の高さと関連があった。

また、女性性の認識の高さは介護職に社会的意義を認めることと、職業において自己の志向性を重視し、さらに介護職が自己の志向に合致していると認識することと関連があった。このことから、介護職に対する高い評価、ひいては介護職就労意志の形成に、自己における男性性、女性性双方の認識の高さが影響しているといえる。